

平成26年度第5回鳥取県和牛産肉能力検定委員会概要

日時 平成27年3月26日(木)午後1時30分～午後4時00分
場所 東伯郡琴浦町松谷606 鳥取県畜産試験場
出席者 河本委員、相見委員、広沢委員、尾古委員、天野委員、木嶋委員、宮崎委員、
松島委員、小西委員、谷口委員、中山委員
西部農協 井澤氏
畜産課 野儀係長
事務局 畜試 岡垣場長、田淵室長、小江研究員

内容

1 協議事項

議題1 平成27年度直接検定第1群の選定について
→「美国白清」を直接検定牛として選定する。

説明等

- ・平成26年11月29月生。血統は「美国桜ー白清85の3ー平茂勝」。
- ・琴浦町産3産目。平成25年度改良基礎雌牛産子。
- ・発育+0.3 σ 。美点は資質、骨味、特に皮膚、被毛。惜しい点は体伸、体深、尻幅、やや毛色。
- ・やや発育が物足りないが、非常に資質の良い牛。
- ・母牛「きよひらしげ」の産子成績は「百合茂」の雌で枝肉重量460.8kg、ロース芯面積68cm²、BMS No.12。
- ・優良遺伝子領域はBMS1領域。

意見等

- 発育+0.3 σ ということで平均的な体高。美点は資質、骨味ということで資質系の牛。惜しい点は体伸、体深、尻幅。体の毛色は後躯のあたり、尻、脚のあたりが白い状況。肩まわりも良くも悪くもなく現状。みなさまから意見を伺う。
- 血統的には断る理由がない。「白清85の3」は「みどり」シリーズでいいかといったら、「白清85の3」の血をある程度いろんな種雄牛から鳥取県に残しておくという考え方もできる。「白清85の3」を使っていく中での多様性という意味ではいいのかなと思う。ただ優良遺伝子があまりにも少ないので、ゲノム育種価の見解も聞きたい。
→データでは枝肉重量は低い、脂肪交雑に関してはかなり高い数値。
- 「みどり」と同じ「白清85の3」であるが、「美国桜」でどんなものが出るのか楽しみ。今「みどり」一辺倒になる中、また違う「白清85の3」の牛が出るのはいい。どういう牛になるのか分からないが、骨締りは鳥取にとって大事なもので、いいのではないかと思う。
- 毛色のことだが、だいぶ変わってくるはず。最初は茶色のものでも黒くなるものもあるし、あまりその辺は気にすることはない。血統的には藤良系なので「平白鵬」とちょっとかぶるような感じ。でも良いと思う。

- 「美国桜」は家畜改良センターでも使っているが、これからなのでなんとも言えない。種雄牛の候補牛の一覧を見ても藤良系はあまり強いものがないので良いのではと思う。
- 「白清85の3」、「みどり」の流れの中のスペア、あるいは、「隆福也」のスペア的なものにしか感じられない。今の「白鵬85の3」、「百合白清2」に何が加わって、何が必要かという、サシはこれ以上いらぬという状況の中で血を濃くしすぎないということと、大きくもう一つサイズを求めていきたいというのが近々の願ではないかと思う。
- これ以上サシを望む必要はない中で、質がいいということではあるが、毛色の薄さは繁殖、種牛ということからみても、決して色がうすいからいいぞというのは聞いたことがない。今の2頭に次ぐ牛ということで「隆福也」がいるんだから、このサイズであるなら無理しなくてもいいのではないかと思ったわけだが、他にも候補牛がいなくて特にまだサシの補強とか質の補強をしたいという願いがみなさんの中にあるなら、どうせスペアなのでこれは使い物にならないと予言しながら、そういうことなら買っていいのではないかと思う。もう一つ言いたいのは、今の願に合ったもの、試験場の腹の中には「高森」×「ゆりしらきよ1」の受精卵が入っていると聞いています。そういう目に見える次に向かってのその改良の方向、種牛の方向性が見えるような牛をもうちょっと探す努力をして頂きたいと思う。
- 今後出てくる予定の雄候補はどんなものがあるのか。
 - 今年度については、これで終了。来年度に関してはもとはな2の受精卵産子。あとは「高森」産子、今年度の基礎雌に関しましても枝肉のとれる種雄牛を造成しようということで重点的に選抜し、かつ「高森」等を交配して造ろうとしている。そういったことでこれから大柄な枝肉のとれる牛を造っていききたい。この牛はちょうど過渡期で出来た牛。来年度に対して、「高森」の交配で今、試験場で雄が生まれており、遺伝病されクリアすれば今度の検定委員会でかけたいと思う。
- ◎「白清85の3」×「平茂勝」×「安福」と「みどり」と同様の血統であるという中から生まれた雄牛候補。「美国桜」の雄牛というのは初めて。血統的な面は「みどり」と同じ血統ですが、こういった雄牛もあってもいいのではないかという意見もあった。サイズのなところは気になる所ではあるが、サイズのなところは、来年度からの雄牛の中でその造成の流れができていようであるので、今回は資質系の牛ということで、この牛を推し進めたいという考えもあるようで、この牛につきましては選定するという事でよろしいでしょうか。
 - 異議なし。

議題2 平成26年度改良基礎雌牛の選定について

→平成26年度改良基礎雌牛12頭を選定する。

説明等

- ・前回の検定委員会で提示した27頭について、巡回し、12頭を選定。
- ・選定の考え方は高森等を交配し、規格外の大きさの雄牛を造成するという考え方のもと、体側結果等を根拠に体積感のある雌牛を選定。
- ・「高森」等で造成する部分で9頭、しば系などの希少系統で「山根雲」で造成していく部分で3頭という内訳。

意見等

- 改良基礎雌牛案27頭の候補をあげた中からさらに12頭に選定したところ。巡回はいっしょに回ったが、実際に母牛を見に行くと枝肉重量はとれているけど母牛は意外と小さいというものの中にはあった。発育にしても体高がマイナスのものもあったし、胸の深さも、平均を満たしていないような牛も中にはいた。枝肉成績という結果をみながらの選抜ということでかけ合わせるものによっても変わってきたのかなということもあるかと思う。体側結果のところでは8番、13番については体高1.1σとあるが、選抜はしていない。8については体高はあったが、かなり痩せており、胸の深さもかなり小さいため外した。13番についてはやや体の長さが小さい、かん幅がほぼ平均ということでトータル的なところで外した。サイズの3.3σぐらいあるものから、マイナスσという牛もあったが、ほぼ1σ程度以上あるような牛を選抜したとのこと。みなさまから意見を伺う。
- 県内の枝肉重量の育種価順位が1400番台という牛がいるが別に問題はないのか。
→そういった牛は育種価が低くても実際の雌牛本牛の産子成績では枝肉重量がとれているといった牛。そういったものも拾った結果であるので問題ない。
- 妥当なところだと思う。
- 脂肪交雑にしろ、枝肉重量にしろ、順位とありますが何頭中の順位なのか。
→約2400頭の雌
- 「高森」を交配するという話だが、「高森」は大きな牛というのはイメージとしてはありますが、実際育種価でいうとどのくらいなのか。他県では、この牛大きいといって使ってみただけど、さほどでもないといったことがあったので。
→約1700頭の雄牛の中の4番目。
- 枝肉重量だけ、パッと取り出せるような技術があればいいが、「高森」といったら大きくなるけどもサシは入らないので見捨てられた牛ではないか。
→実際、「高森」全盛のころ、十分に産肉成績が集められなかったというところがある。某大手で、かなり「高森」で良い成績を出していたということを聞いていたが数字がバックできなくて「高森」という牛がある意味死んでしまったところもあったことは聞いている。自分もその場にいたわけではないので何とも言えないところもあるが、「高森」という牛が非常にいい牛だということを聞いている。確かに「高森」は中身が入らないという人もいる。ただ、「百合白清2」、「白鵬85の3」が造成できた中で、枝肉重量を確保するための母体、あるいはこれらの母体につける牛をどう造っていくかということで今回、ちょっとかなりおもいっきり変えていったところがあります。そうしたところで「高森」で造っていきましょうということです。
- うちも「高森」の息子で「美国桜」の子がいるが、10月生まれの生産検査で体側した時に5σあたりになる。また生まれた子牛がみんなでかい。
- 肥育はやっぱり素牛を導入して出荷するまで、大きな牛の方が楽しめる。とにかく大きな牛がいい。
- 今、選定している基礎雌に「高森」をつけてくださいというお願いはしてあるのか。
→承諾は得ている。
- 雌が生まれたらどうする。
→そういうことも言われましたが、話はして承諾は得ている。

- 実験的には楽しい。持ち主の人は複雑な心境。
- こういうことができるようになったのは、「みどり」の子のおかげ。「平茂勝」が世に出るきっかけは「忠福」なり「神高福」の母体があって、それに交配して、それとの相性で世に出て行った。「高森」だって、そういう土台があってベースがあればもっと活躍したではなかろうかという人もある。いろんな新たな試みができる余裕が鳥取県の雄牛の中にできたということはすばらしいことだし、やってみるのは楽しいじゃないですか
- ネックになるのは雌が生まれた時であり、非常に心配。果たして協力が得られるのか。「百合白清2」、「白鵬85の3」で高価格で売れるので農家の人もつけてくれるのかというのが一番心配。
 - 基礎雌牛の場合、指定交配してもらった時に23,500円を支払いして、その後、雌が生まれて、セリに出荷した時も当該セリのセリ平均+2万円の部分の差額までは補償しますよという制度は作っている。ただ今回選んだ牛も、普通に「百合白清2」等をつけるとそれ以上の販売価格をとれる牛だったりするので、だからたしかにそこはネック。
- 枝肉重量という意味では違うのかもしれないが、血統的な考え方で造るということでは「こまち39」があってもいいんじゃないかというふうに思う。
 - 鳥取らしいという意味では良いが、ただ枝肉重量が取れない。
 - 「こまち39」は極めて産肉能力は高い牛ではある。
 - 何かに特化してないと使いづらい。
 - 「こまち39」も、おもしろいんですけど、枝肉重量も脂肪交雑もどっちも中途半端な感じになりそうな気がして、今回はかなり大きい牛ということに特化し、牛を選定した。
- おもしろいのはおもしろい。
- 良いと思う。
- 「平茂勝」の血量が多くなってきているが、鹿児島県は「金幸」を大事に持っている。これだけ「平茂勝」が増えている中で「高森」は「第2気高」の系統で貴重な血統。「第2気高」はものすごく繁殖能力が高く、子育て上手、繁殖農家としてはこういう系統の牛を造ってほしい。そうすると次が交配しやすくなる。それと大きな牛ができるということについては、今「高森」の息子がいる肥育農家に行っていますが、すごい大きくなっているという話なんです。枝肉重量が欲しい時にはこれだという牛ができたらいいと思う。
- 産肉性もある程度確保しながら、行かざる得ないと思う。「高森」でどうなるかということ、我々も実験的なところがかなりある。そうしたところで今回、実験的な形で種雄牛造成をさせていただくということ。その牛の結果が出るのが5年後くらいになる。その時にどうだったのか。あの時の判断は正しかったのかが分かる。
- ◎先ほど大きい牛を選んだという話で「高森」の交配を考えており、枝肉重量に特に重きをおいて雄造りを行っていくということ。雌が生まれたらどうするというような心配はあるが、補償ということも考えながら、これも農家さんのところに行った時に説明をしておりましたし、「高森」という交配を考えているということも話ながら、説明をさせていただきました。最初に話した時の印象はひく感じはありましたが、こういった考えでということをお話すとそういったことならば協力するということでした。「百合白清2」、「白

鵬85の3」という産肉能力の高い牛が生まれているので、今後それらの母体ができてくるだろうと、そういうところに枝肉重量がとれる牛を考えているという説明を併せてしてきたところ。大きい牛を造るということで、みなさんからはおもしろいではないかという意見もいただいたというふうに思う。26年度の改良基礎雌牛については、この選抜案でいきたいと思うがよろしいか。

→異議なし。

次回開催予定

6月上旬

内容

- 平成27年度直接検定第2群の選定について
- 平成26年度直接検定第5群「八重栄」の選抜・保留について
- 現場後代検定終了に伴う「夏美安」の選抜・保留について

ほか